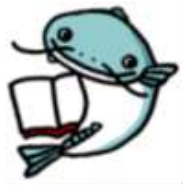
第63号



ナマズの知恵袋

令和３年（2021年）８月
編集・発行 滋賀県立図書館

ザ・ファッション　うら・おもて

語源的には「型」や「様式」に由来する英語の「ファッション」。この語は、日本では、主に服飾デザインの「流行」という意味で用いられがちですが、その背景に浮かぶのは、人間の、物心両面にわたる生活形成の方法であり、その様式と内容の総称である「文化」との関係です。今回は、奥深いファッションの世界をご案内します。

ファッションを語る言葉

『ファッション大辞典　新版』吉村誠一／著、繊研新聞社、2019年、[R-5892-ヨ]

ファッション関係の用語のほか、現代用語やインテリアデザイン関係の基礎用語を幅広く収録しています。

『服飾辞典』文化出版局、1985年、[R-3831-ｱ]

服飾とその関連分野の用語を収録。付録には「図解パリ・モードの変遷」「刺繍ステッチの名称表」などもあります。

『フェアチャイルドファッション辞典　新版』C.M.キャラシベッタ／著、鎌倉書房、1992年、[R-5892-ｶ]

カラー、スカートなどの種類別に用語をまとめて収録しているのが特徴。後半はデザイナーを紹介しています。

『新・田中千代服飾事典』田中千代／著、同文書院、1998年、[R-5930-ﾀ]

服飾に関する広範囲の用語を多数の図版とともに収録しています。

『ファッション辞典』文化出版局／編、文化出版局、1999年、[R-5930-ｱ]

アイテム、ディティールなど12のジャンルに分けて解説。風俗、アート、色彩など、周辺の語も収録しています。

『ファッション/アパレル辞典』小川龍夫／著、繊研新聞社、2004年、[R-5892-ｵ]

同義語や言い換え語、語源や由来の解説に力点が置かれています。

『イラスト入り装い・服飾用語事典』アレックス・ニューマン／著、柊風舎、2020年、[R-3831-ﾆ]

西洋ファッションに関する用語を中心に解説しています。

ファッションの歴史

『FASHION 世界服飾大図鑑』キャリン・フランクリン／監修、河出書房新社、2013年、[GB-3831-ｱ]

絵画や写真の中の人物を切り取った図版で、古代から現代までのファッションを解説しています。

『FASHION』マーニー・フォッグ／責任編集、東京堂出版、2016年、[3-3831-ｱ]

古代から現代までの出来事を交えつつ、各時代のファッションの特徴をクローズアップして紹介しています。

『服飾の世界史 本篇、資料編』丹野郁／著、白水社、1985年、[3-3831-ﾀ]

ヨーロッパを中心とした服飾スタイルが、どのように形成されるのかを探ります。資料編は図版集です。

『図説服装の歴史 上・下』アドルフ・ローゼンベルク／著、国書刊行会、2001年、[4B-3831-ﾛ]

古代から19世紀頃のヨーロッパの服装を、美しい図版とそれに対応する解説文で紹介しています。

『日本服飾史』増田美子／編、東京堂出版、2013年、[G-3831-ﾏ]

『図説日本服飾史事典』増田美子／編、東京堂出版、2017.9、[3-3831-ﾏ]

古代から現代まで、日本の服飾の歴史を辿ります。

民族衣装－歴史と風土の中で

民族衣装は、世界の様々な地域の特色を反映しています。

『世界の民族衣装の事典』丹野郁／監修、東京堂出版、2006年、R-3831-ﾀ

『世界の民族衣装文化図鑑 1、2』パトリシア・リーフ・アナワルト／著、柊風舎、2011年、 GB-3831-ｱ

『世界の民族衣装図鑑』文化学園服飾博物館／編著、ラトルズ、2019年、 G-3831-ｱ

ファッション×日本

ファッションには、外観上のデザインやコーディネイトに留まらない側面があることは既に述べたとおりですが、とりわけ、日本の社会・文化においては、とくに明治期の文明開化とそれ以降の洋装化が大きなインパクトを与えました。国策として、軍服、ついで男子の正装に洋服が導入され、次第に学校の制服や仕事着なども洋装化されてゆきます。ここでは、そうした観点からアプローチする場合に、手がかりとなる資料を紹介しましょう。

『年表近代日本の身装文化』高橋晴子／著、三元社、2007 年[G-3831-ﾀ]

身装（身体と装飾）を「ひとの視覚的な自己表現のすべてを含んだ文化概念」と定義し、1868 年～1945 年に発行された新聞、雑誌、図書から該当する記述を年表化した資料。当時の歴史的事件や社会状況、行政による規制等と比較しながら、その変遷を追うことができます。あわせて同じ著者の**『近代日本の身装文化』三元社、2007 年[G-3831-ﾀ]**もご覧ください。

『新聞連載小説の挿絵でみる近代日本の身装文化』大丸弘／著、三元社、2019 年、[3-3831-ﾀ]

上記と同じ趣旨の資料ですが、挿絵でみることで、より視覚イメージが明確になります。

『日本軍服大図鑑 明治篇　写真集』平山晋／編著、国書刊行会、2018 年、[3-3950-ﾋ]

日本で最大規模のコレクションを持つ著者による軍装品の写真集。細部まで調べることができます。

『明治国家の服制と華族』刑部芳則／著、吉川弘文館、2012 年、[3-3831-ｵ]

服制を政治史として分析した資料です。

『リクルートスーツの社会史』田中里尚／著、青土社、2019 年、[G-3831-ﾀ]

主題はリクルートスーツですが、第１章で日本近代の男性洋装の受容、とくに「背広」がどのような意味を持っていたかがまとめられています。

『近代日本学校制服図録』難波知子／著、創元社、2016 年、[G-3831-ﾅ]

近代日本の男女の学校制服の変遷をたどるビジュアル資料。まえがきで、ジェンダー規範による男女の洋服普及過程の違い、私費調製という学校制服の特徴、既製服産業への影響など、学校制服文化を概観します。

あわせて同じ著者の**『学校制服の文化史』（創元社、2012 年、[G-3764-ﾅ]）**もご覧ください。

『洋服と日本人 国民服というモード』井上雅人／著、広済堂出版、2001 年、[3-3831-ｲ]

「国民服」と「婦人標準服」は、軍服の代替として一様に語られがちですが、前者はスーツを、後者は大正期からの生活改善運動を継承したものであることを示しつつ、その成立・受容を論じた資料です。

洋の東西を問わず、ファッションは先鋭的な感覚や美意識を敏感に映し出します。その動向を探るには、ファッション雑誌を手に取るのが最適です。当館では、**『Mode et Mode』**、**『装苑』**といった日本語雑誌をはじめ、中華圏の**『時装』**、欧米系では**『HARPER'S BAZAAR』**、**『VOGUE』**と、ワールドワイドに取り揃えています。

インターネットでも！

京都服飾文化研究財団　https://www.kci.or.jp/archives/digital_archives/　１万３千点の収蔵品の中から選りすぐったものを年代別で検索、閲覧できるデジタルアーカイブです。

国立民族学博物館　https://htq.minpaku.ac.jp/menu/database.html　多様なデータベースが提供されています。中でも、「身装画像データベース」「衣服・アクセサリーデータベース」などは今回文献を紹介した大丸、高橋らが作成に関わっています。

文化学園服飾博物館　http://digmus.bunka.ac.jp/index.html　収蔵品のうち約 600 件が公開され、検索できます。

（すべて８月１日確認）